

1年生合同バンド

●グループ・ミュージック

Groove Music

ブライアン・バルメイジズ

Brian Balmages (b.1975:アメリカ)

近年日本でも注目度を高めているバルメイジズによる、スピード感とドライブ感に溢れたパワフルな曲。タイトルの「グループ」は「ノリノリ」と訳するのが良いだろう。作曲者は「さまざまなリズムの組合せに焦点をあてた作品」と述べている。細かいリズムと大きな動きが同時に組み合わせられて、あたかも2つのテンポが同時に存在するような錯覚を引き起こしたりと、大変手の込んだリズム構成の試みがなされている。最後はそれまでに出了た全ての要素が総動員される。曲全体の音楽構成も大変良く練られた秀作。とにかくノリノリ。2013年作曲。

●吹奏楽のための第1組曲

First Suite for Band

(I)マーチ (III)ラグ (IV)ギャロップ

アルフレッド・リード

Alfred Reed (1921-1995:アメリカ)

吹奏楽界の巨匠、リード博士が他界したのは2005年。生涯で多くの優れた吹奏楽曲を作曲、近代吹奏楽の発展への貢献は計り知れない。生前に小曲をまとめた7つの組曲を発表しており、今回演奏するのは1974年作曲の第1組曲である。リードの組曲は、番号と一緒に、ほとんどに表題が付いており、情景を思い浮かべながら聴けるのだが、この第1番には表題が付いておらず、音楽性を追求した純粋吹奏楽曲と解釈できるだろう。I. マーチ、II. メロディ、III. ラグ、IV. ギャロップの4曲で構成されており、今回はそのうち3つの曲を演奏します。

●オアフ島の情景 - 碧き海と聖なる大地の歌 -

Scenes from the Island of Oahu

八木澤教司

Satoshi Yagisawa (b.1975:日本)

市川市在住の作曲家、八木澤教司さんの紹介は前記参照のこと。この曲は本年3月に書き上がり、4月に世界初演が行われたばかりの新作である。この「ジョイント」では八木澤さんのご厚意もあり、毎年1年バンドで新作を演奏してきた(今回で12回目)。今回の練習期間中には、八木澤さんが練習会場にお越しになった日もあり、演奏に関する貴重なアドバイスを頂くことが出来た。さて、タイトルの「オアフ島」であるが、あまり聞き覚えのない方も居ると思われるが、ホノルル、ワイキキといった地名を聞けばピンと来る方は多いだろう。オアフ島はハワイの中心となる島で、リゾートであると同時に、独特な文化も残り、碧く美しいビーチや壮大な山々は人々に癒しを与えている。そんな魅力に惹かれて、世界中から人々が集まって来る。オアフ島の感動的な情景を日本の吹奏楽ファンにも伝えるために作曲された。

■第24回ジョイントコンサート合同練習記録■

9月8日(月) [打ち合わせ]	準備	市川昂高校(各校顧問・部員代表)		
11月1日(土) [1日練習]	第1回	2年練習校	市川昂	1年練習校 松戸向陽
11月9日(日) [1日練習]	第2回		市川昂	松戸向陽
11月22日(土) [1日練習]	第3回		市川昂	松戸向陽
11月23日(日) [1日練習]	第4回		市川昂	松戸向陽
11月29日(土) [1日練習]	第5回		市川昂	国分
11月30日(日) [1日練習]	第6回		市川昂	国分
12月14日(日) [1日練習]	第7回		市川昂	松戸向陽
12月20日(土) [1日練習]	第8回	松戸六実		松戸向陽
12月21日(日) [1日練習]	第9回		市川昂	松戸向陽
12月23日(祝) [1日練習]	第10回		市川昂	松戸向陽
12月27日(土) [リハーサル]	本番	市川市文化会館(大ホール)		

2年生合同バンド

●フェスティバル・バリエーション

Festival Variations

吹奏楽界で「スミス」と言えば、R. W. Smith、C. T. Smithの2人の作曲家が思い浮かぶ。今の高校生なら前者を答えると思うが、長年吹奏楽に携わっている大人の方々は後者を答えるのではないだろうか。C. T. スミスは20世紀中期に活躍したアメリカの作曲家で、高校や大学で音楽教育に携わりながら、出版社の編集長に就任し、自分の作品の出版に力を入れた。1987年に他界するまでに、優れた吹奏楽曲を多数手掛け、それらは現在でも高く評価されている。

彼はアメリカ軍楽隊との関係が深く、多くの曲を提供した。1982年作曲「フェスティバル・バリエーション」は、世界最高レベルの実力を誇るアメリカ空軍バンドと、当時の隊長ゲイブリエル大佐の委嘱により作曲され、初演は大反響で迎えられた。大佐は本作の高度な演奏技術や、輝かしいサウンドに対して「20世紀の記念碑的な作品になるだろう」といった賛辞を述べ、これはフルスコアにも記載されている。大きく見ると「速い-遅い-速い」の3部構成で、全体に渡って魅力満載の曲である。ホルンに高難度の技術が要求されるのだが、これは自身もホルン奏者で、ホルンを知り尽くしたスミスが、当時の空軍バンドの首席ホルン奏者が大学時代のライバルであったことから、わざと難しく書いたという有名なエピソードがある。

クロード・スミス

Claude T. Smith (1932-1987:アメリカ)

●ハーレクイン

Harlequin (Euphonium Solo for Concert Band)

スパークは母国イギリスで盛んな金管バンド(金管楽器+打楽器)や、吹奏楽のための曲を数多く手掛けており、この分野では最も有名な作曲家の1人である。2004年に金管バンドの伴奏によるユーフォニウム独奏曲として作曲された本作は、現在ではピアノ伴奏版、吹奏楽伴奏版なども出版され、世界中のユーフォニウム奏者に支持され、人気曲となっている。

イタリアの即興演劇「コンメディア・デッラルテ」を題材として作曲された曲で、タイトルは演劇に登場する人物(道化師的な存在の人気者)の名前の英語読みである。劇中で使われる「幸せ」と「悲しみ」という2つの仮面から着想を得て、ゆっくりと歌われるバラードの前半部と、テクニカルでめまぐるしいテンポで演奏される後半部の、2つの部分で構成されている。

フィリップ・スパーク

Philip Sparke (b.1951:イギリス)

武藤 卓(ユーフォニウム)

千葉県市川市出身。市川市立大柏小学校でユーフォニウムを始める。千葉県立市川西高校(現・市川昂高校)卒業。2009年、尚美ミュージックカレッジ卒業。

2012年、フランスリヨン国立高等音楽院入学。2014年、同校を最優秀で終了。管打楽器コンクールにおいて第3位(1位なし)を受賞した。

●交響組曲第9番「海のオーロラ」より

天野正道

Morceau par 9e.Suite Symphonique "The Aurora" l'Orchestre de Vent Masamicz Amano (b.1957:日本)

深海 - 圧壊 - 予言 - 脱出 - 地上 - メインテーマ

天野正道は大変実績を持った作曲家で、管弦楽などの古典音楽はもちろん、映画、テレビ、CM、アニメ、ゲームに至るまで、あらゆる音楽ジャンルで活躍している。その活動の場は国外にも広く及んでいる。作曲者自身の作品を再編集して作られた交響組曲は現在10作ほどあり、この「ジョイント」では、過去に第2番「GR」、第5番「NR」、第7番「BR」を演奏してきた。今回は第9番「海のオーロラ」に初挑戦する。これは2001年公開の長編アニメーション映画の音楽である。西暦2033年の海底4200m。人類は枯渇しかかった資源を海底下のマントルに求め採掘を進めていた。しかしマントル中に眠っていた超腐食性の古代バクテリアを掘り当ててしまい、物語は大きく展開する。タイトルの「海のオーロラ」は、海底から立ち上るバクテリアが海中でオーロラの如く漂う光景を示している。採掘を続け利権を己のものとして画策する科学者、それを阻止しようとするヒロイン。押し寄せるバクテリアの恐怖と立ち向かう技術者たち。そして命がけの脱出。そんな情景を思い浮かべながらお聴きいただきたい。この大曲に全力で立ち向かう2年バンドにも注目！。これぞジョイント。お聴き逃しなく！。